

The social welfare in OSAKA



大阪の 社会福祉

2023年4月

815



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



▲部屋のあちこちで子どもと地域の大人が一緒になってオセロやあやとりを楽しみました



「地域」が主体と
なったこどもの
居場所づくり

2月17日に、1月に立ち上
がった「玉川カフェ」の第2回
が、開催されました。オセロや

トランプ、あやとりなどこども
たちと地域の大人たちが、楽し
く一緒に遊んでおり、会場には
のびのびと安心して過ごすこ
もたちの笑い声が響いていまし
た。(2面につづく)

福島区

地域でこどもを見守り、育てる
こどもを真ん中に、
「玉川カフェ」でつながる、
広がる地域の輪



HB

子どもにとって箸や
茶碗などの食器は、
生活をするうえでと
ても大切なものだ。重た過ぎ
ず、あるいは長過ぎずなど、
成長の過程に見合ったものが
求められる▼しかし、成長過
程にある子どもに適している
ものを選ぶことは難しい。最
初は割れないようにプラス
チックの茶碗を選ぶが、いつ
から磁器に替えるのか、ス
プーンから箸に替えるのはい
つがいいかなど、親には共通
の悩みだろう▼そうした子ど
も用の食器を専門に作って
売っている焼き物屋さんがい
る。話し出したらきりがな
く、2時間も話を聞く羽目に
陥った。全国の焼き物市など
に、年間100日以上も売り
に回っているらしい▼お正月
に孫が帰ってくるからとか、
災害で食器をみんななくして
しまったからとか、お客さん
の事情を聴きながら売るのが
楽しいらしい▼作者の名前で
売った陶芸作家ではないけれ
ど、使う人が便利だと思える
ものを作ることが、陶芸職人
としての自分の役割だと。最
近では、子どもに使いやすい
食器が、大きさ、重さの面
でも、要介護の高齢者にも役
立っているとか▼困難を抱え
る人に見合った道具を作る職
人の仕事が好きで誇らしげ
だった。

(石)

地域で子どもを見守り、育てる こどもを真ん中に、「玉川カフェ」で つながる、広がる地域の輪



▲会場の黒板に描かれたメッセージ

「玉川カフェ」は、高齢者食事サービスなどの事業をしている、「玉川コミュニティセンター」を拠点として、お菓子や飲み物を提供し、放課後にごどもが過ごせる居場所として今年1～3月に月1回開催されました。

「福島区内ではこどもの数が増えています。玉川地域でも大型マンションなどの建設が進む

なかで、子育て世代が地域住民と交流できる機会となつてほしいと思います。区内で初めて、地域が一体となつてこどもの居場所づくり活動に取り組ま

す」と、玉川カフェ代表の叶隆

さん。

玉川地域福祉コーディネーターの家亦恵美子さんは、「コロナ禍で休校になったときに、精神面で不安定になりこどもが

引きこもっている、こども

もが家に一人で留守番

しているという声を聞

きました。ほかにも、コ

ミュニティセンターの隣

の公園で、遅くまで遊ん

でいる子がいるなど、気

がかりなことが身近に

増えており、地域一体と

なりこどもの居場所づく

りに取り組みたいと思

い、動き出しました」と

と活動のきっかけにつ

いて話します。「玉川カ

フェ」立上げの数か月前

から、学校や地域団

体に「地域でこどもが過

すことができる居場所

の大切さ」を伝えてい

機が熟し、 バックアップも 得ながら開催

き、玉川小学校のPTA会長の協力で、学校でアンケート調査ができることになり、立上げに向けて準備を進めていました。

昨年の秋頃、社会福祉法人麦の穂玉川ひばりこども園でも理事長の大谷常一さんや園長の角上美恵子さんが中心となつてこども食堂を開設できないかと考えて検討を進めていました。そして、地元の玉川地域がこども食堂の実施をめざして奔走していることを知り、「社会福祉法人として地域に貢献できるの



▲オセロやあやとりを介して話もはずみます

「開催に至るまでにさまざまな課題がありました。地域の皆さんや玉川ひばりこども園、区役所や学校などが一緒になつて検討を進めながら、その時々

の悩みを一緒に考えていきました」と区社協地域支援担当の大浦瑞来さん。

「玉川カフェ」では、こどもたちが帰る際、保護者が迎えにきています。そのため、「これまでの登下校の見守りではこ

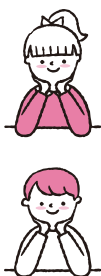
地域住民による 新たなつながりの 場に

であればぜひ」と、実施に向けて動き出しました。

「玉川カフェ」開催に向け、叶代表や家亦さんが中心となりながら、連合町会や女性会、民生委員・児童委員、青少年指導員や地域の有志のボランティア、そして施設が一緒になり、開催に向けて話し合いを重ねました。玉川ひばりこども園は、こどもとの関わり方や衛生面の管理など、専門性を活かしてフォローをしています。



▲地域のボランティアの皆さん。LINEグループを立ち上げ、それぞれが希望する時間帯でシフトを組み、無理のない月1ペースの開催をめざしています



もたちとしか接していなかったですが、お母さんお父さんとも顔見知りになるきっかけにもなっています」と顔をほころばせる叶代表。また、活動をきっかけに、初めて地域の取組みに参加された人もいます。

4月以降はこども食堂として夕食の提供も始める予定です。こどもたちの居場所としてだけでなく、地域住民同士の新たなつながりの場として「玉川カフェ」の今後が期待されます。

こどもレスキュー事業

企業の強み、思いをつないで

ひとつのカタチに



社協には、企業や団体の強みを活かせる機会を引き出し、地域住民につなげることで、地域福祉を推進する役割があります。取組みを進めることで、新たな協力者の参加や連携の機会が増えると、企業や団体の「やりたい」と地域の「足りない」部分が重なりあい、さまざまな相乗効果を生み出します。ここで

は、淀川区社協が推進している取組みを紹介します。



今、必要なところに必要な物資を

淀川区社協では、企業などからの寄附を活用して、区独自の事業として、新型コロナウイルス感染症による就労環境の悪化やそのほかの事情により日常生活の維持が困難になった区内在住の中学生までのこどもを養育する世帯を対象にした「こどもレスキュー事業」に取り組んでいます。この事業では、職員が面談したうえで食料やおむつな

どの物品支援、制服などの購入費支援をしています。学用品や食料やおむつを渡すことをきっかけに、対面で相談に乗り、必要があれば支援機関につなぎます。

また、支援の形を検討するなかで、学習習慣をつけること、またみんなと楽しく過ごし、一緒に食事をする機会をつくりたいという思いで、週2回区社協等の会議室を開放し「レスキューフリースクール（学習支援）」を展開しています。そこでは、大学生などがボランティアとして活躍し、先生として、時にはお兄ちゃん・お姉ちゃんとしてこどもたちと関わっています。ほかにも、企業やフードドライブを通して寄附のあった軽食を提供しています。

企業の思いをカタチに

こどもレスキュー事業を始めたのは、生活困窮者世帯のこどもに、企業の売上げの一部を役立ててほしいという思いをもった企業から相談を受けたことがきっかけでした。多大な寄附をいただいたなかで活用するため

には仕組みが必要だと、区社協職員が検討を重ねました。令和2年度にこどもレスキュー事業を立ち上げた当初は、なかなか相談がありませんでしたが、小中学校にも広く周知し、だんだん口コミで広まり、これまでに約160世帯に相談援助・物資提供の支援をしてきました。

さまざまな企業や団体が参画できる入口に

支援の幅が広がったのは、取組みの趣旨に賛同する企業や団



▲面談後に、食料やおむつをお渡しします

体の強みを活かしてできる、無理のない協力をしていただくことを大切にしているからです。企業が集まることで、ニーズに即してスピーディーに対応することができています。

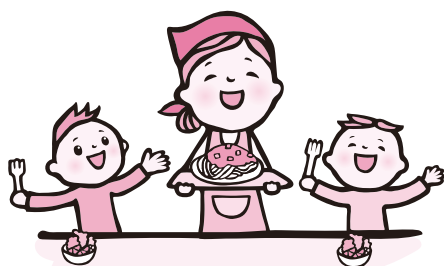
例えば、クリスマスに「丸い大きなケーキを食べたい！」との声に対しては、企業やライオンズクラブと一緒にクリスマスケーキお渡し会を開催したり、「卒業式に着ていく服がない！」との声に対しては、入学・卒業式用のセレモニースーツを寄附いただいて「セレモニースーツレンタル事業」を立ち上げたりしています。また区社協に自動販売機を設置して売上げの一部をこどもレスキュー事業に寄附していただいたりと、多様な方法で協力いただいています。

中心になって、事業を展開する区社協・地域支援担当の前田歩美さんは、「この事業を通して、企業や団体、個人の方のたくさんの方のあたたかい心につなげることができました。今後は物資を渡すだけでなく、どこまでも、こどもに焦点をあてて、ボランティア活動を兼ねた世代間交流の場づくりや、小中学生向け企業見学の機会づくりなど、たくさんの経験と



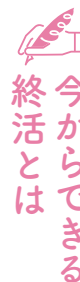
▲お寿司を無償でふるまっていたいただきました

主体性をもって取り組める事業に展開していきたいです。また、区内の各団体やハローワークと協力して、保護者向けの職業相談会など、少しでも生活改善につながるサポートも広げていきたいです」と話しました。



男の終活

最期の時まで自分らしくいるために
できることを考える



今からできる
終活とは

3月10日、都島区社協では、区内在住のひとり暮らしの男性を対象にした「大丈夫、ひとりでも。最期の時まで、誇り高く、自分らしくいるために。男の終活」を開催しました。今回は、7人が参加し、終活について考えました。申込時の事前アンケートでは

参加者から「生前・遺品整理」「相続」「後見人制度」などについて知りたいとの声があり、講師の株式会社都島葬祭の衣笠幸次さんはそれらに答えながら、「終活として事前に準備できることはたくさんあります」と話しました。

例えば、訪問医とつながっておくこと、葬儀会社を決めておくこと、マンション在住であれば、柩を運び出すことが可能かどうかエレベーターを確認しておくこと、遺言状についてなど具体例を挙げながら説明がありました。また、エンディングノートについても触れ、終末期や葬儀についての希望などを細かく書くだけでなく、自身のプロフィールや好きなものや楽しかったことなど自分の人生に向き合い、整理するものでもあるとアドバイスがありました。



▲輪になって気軽に質問しながら、日ごろの想いを語り合いました

その後、区社協・包括支援担当の月元三幸さんから、もしもの時のために、今から準備できることとして、「あんしんカプセル」が渡されました。あんしんカプセルとは、かかりつけ医や既往症などの医療情報をカプセルに入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておき、家で倒れたときにかけつけた救急隊員がカプセルの情報を確認することで適切な処置に役立てるものです。

ほかにも、今から準備できることリストや急な入院時に必要となるタオル・病衣・日用品などをレンタルできるサービスの活用について説明しました。



コミュニティに参加
することが大事

今回の参加者は「ひとり暮らしの男性」という共通点があり、ひとり暮らしならではの不安や想いを共有しながら学びを深めました。共感できることも多く時折うなずきながら、活発な



▲“あんしんカプセル”を説明する月元さん

このつどいを開催したのは、都島区社協で毎年開催される防災大作戦や、都島区地域包括支援センター主催の男のための座学、第二の人生を豊かにする などとったアンケート結果や、日頃の



当事者の声を
反映して企画

意見交換がなされました。なかには、「孤独死はしたくないけど、向こう三軒両隣のつながりをつくるのが難しい。近所に顔なじみをつくってお互いに見守れたら安心」「毎朝、大阪城のラジオ体操に参加しているが参加者が多いので、近所で、もっと少人数でできれば、顔が分かりお互いに気にかけるのはないか」「コミュニティに参加しておくことが大事だと感じる」「今日、せっかくひとり暮らしの男性という共通点を持った人と出会えたので、今後も終活のことだけでなく日常的な悩みを情報交換できるような関係になりたい」といった、今後の人とのつながり方についても話が広がっていました。

もしもの時のために、 今から準備できることリスト

- かかりつけ医はもっておく
- かかりつけ医や病名などをメモして財布の中に入れて持ち歩く
- 倒れた時のために緊急連絡先として家族や友人の名前も書いて財布に入れておく
- 保険証やお薬手帳は持ち歩く
- 家の中の不用品は片づけておく
- 千円札は数枚財布に入れておく
- 玄関先に入院時にもっていく荷物をまとめておいておく
- あんしんカプセルを書いておく

相談内容から、終活に対する関心の高さを感じたことがきっかけでした。そのなかに、「ひとり暮らしで、もしもの時のことを考えて不安を抱えている」という声や、「男性がひとりで参加して話せる機会が少ない」という声があり、今回は参加者をひとり暮らしの男性に限定しました。

月元さんは、「地域の中で孤立しやすいのは男性が多いです。そのため男性だけで時間をかけて少しずつうちとけ、継続した連絡を取りあえる“つながり”づくりを今後もすすめていきたいと思っています。また、女性の方からも参加したいという声が多かったので男女関係なく終活について学べる機会も検討しています。参加者のご意見を参考に今後の取組みについて考えていきたいと思いました」と今後の展望を話しました。

令和5年度の事業計画 及び予算を承認

―市社協理事会・評議員会―

市社協は、3月15日に理事会、3月23日に評議員会を市立社会福祉センターで開催しました。令和5年度事業計画及び予算（案）について審議されました。理事会では、就業規則の一部改正（案）、理事候補者の推薦、評議員候補者の推薦、評議員会の開催（案）について、評議員会では理事の選任について審議され、いずれも原案どおり承認されました。

令和5年度事業計画では、持続可能で自律した組織基盤の強化の一環として、市社協の認知度向上や、誰もが容易に必要な情報を得られるよう、8年ぶりにホームページを全面リニューアルするほか、3か年計

画として市・区社協ともに推進してきた第2期大阪市地域福祉活動推進計画が最終年度を迎えるため、これまでの取り組みを総括しながら、第3期の計画策定に向けて取り組みます。

また、地域社会のなかで住民の孤立や生活困窮が広がり、単独の相談窓口では対応が難しい課題が増加していることをふまえ、身近な地域での助け合い・支え合いの充実をめざす地域支援と、あらゆる相談を受け止め、多様な関係者とともに地域での暮らしを支える個別支援の両面の機能を最大限発揮し、区の特性に応じた事業展開ができるよう各区社協への支援を強化します。

令和5年度事業計画

- 1 持続可能で自律した組織基盤の強化
- 2 第2期 大阪市地域福祉活動推進計画の推進及び次期計画の策定に向けた取組み
- 3 地域共生社会の実現に向け地域福祉の推進基盤を担う区社協への支援強化
- 4 多様な主体・資源がつながる地域福祉活動の推進
- 5 地域福祉を支える人材確保及び育成強化
- 6 暮らしの相談支援の充実
- 7 暮らしの安心を支える権利擁護の推進
- 8 災害に備えた平時からの取組みの推進
- 9 介護保険要介護認定調査・障がい支援区分認定調査事業の実施
- 10 福祉関係機関・団体との連携と協働

詳細はホームページに掲載しています▶



コロナ禍での参加者・活動者の変化を共有

―大阪市地域福祉活動推進委員会―

市社協は2月24日に、第47回大阪市地域福祉活動推進委員会を開催しました。

同委員会は、区社協や民生委員・児童委員の代表者のほか、地域福祉活動やボランティア・市民活動、社会福祉施設、企業などの関係者、学識経験者など12人の委員で構成しています。市社協では同委員会での検討のもと、令和3年3月に第2期大阪市地域福祉活動推進計画（計画期間：令和3～5年度）を策定し、令和4年度は同計画の2年目にあたります。

委員会では、計画2年目の市・区社協の取組みについて報告した後、委員による意見交換を実施。特に、コロナ禍でのさまざまな活動の参加者・活動者など「人」の変化に着目した意見が交わされました。

地域の高齢者食事サービスでは、中止・休止期間を経て、再開後に参加・活動できなくなる人が増えたり、なかにはみんなが集まって食事することに抵抗感があり、会食に戻らない人もいるという意見がありました。高齢者を中心とした活動は、コロナ禍で厳しい状況となったものも多い一方で、学生をはじめとする若い世代は、多くの制約があった反動からか、「大学でボランティア活動を呼びかけると、かなりの数の反応がある。活動にあたっては、経験が十分

めとする若い世代は、多くの制約があった反動からか、「大学でボランティア活動を呼びかけると、かなりの数の反応がある。活動にあたっては、経験が十分

にないもので、ていねいなフォローや調整が必要」「得意分野を活かしてNPOの活動に継続的に関わってくれて、大きな力になっている」といった声もあり、マイナスイ面だけでなくプラス面も含めて、コロナ禍での変化を多面から捉える必要があることを確認しました。

しました。

令和5年度においては、現行の第2期計画を総括すると同時に、新たに第3期計画の策定作業に取り組みます。策定にあたっては、地域福祉活動の状況や、社会福祉施設の公益的な取組みなど、この間、実施してきた調査結果も活用し、さまざまな声を集めながら、コロナ禍の先を見据えた地域福祉活動の方向性を描き、市・区社協の取組みを検討していきます。



西淀川ささえあいあいプラン



多様な主体と協力 して策定・推進

「地域福祉活動計画」とは、地域住民・関係団体みなで力を合わせてつくる、地域福祉活動を推進するための具体的な活動の計画で、さまざまな形や進め方があります。

西淀川区社協では、区役所と協働で「西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画 西淀川ささえあいあいプラン」を策定し、地域福祉の推進に向け、住民の声や地域の特性に合わせて取組みを検討し、実施しています。計画は必要に応じ見直ししながら進めていますが、令和2年度から令和6年度までの5年間で推進期間としており、今年度で4年目を迎えました。

地域共生社会の実現のために

年齢や障がいの有無などに関わらず、誰もが慣れ親しんだ地域で、安心・安全に、生きがいをもって暮らし、ともに支え合い、助け合える「地域共生社会」の実現のために「支え上手支えられ上手な人があふれるまち

部会②

届ける ～にしよどL♡VE～となりのお節介さん

地域において、さまざまな人と日常的に関わり、情報収集や発信などをおこなっている人や、人知れず地道に活動している人を「となりのお節介さん」とし認定された人がますます地域で活動ができるよう、活躍を支援する取組みです。西淀川区が「ステキなお節介さん」であふれることをめざします。

となりのお節介さんとは…

- 人知れずに、定期的におこなっている活動（清掃活動、樹木の世話など）をしている人
- 行事や活動の支援・サポートをしている人
- 日常的なボランティア活動や地域福祉活動（見守りなど）をしている人

「となりのお節介さん」に認定された人には…

- 「タコルプ（となりのお節介さんキャラクター）」の缶バッジをプレゼント
- 活動内容などを広報紙や区社協のホームページで紹介予定
- 「となりのお節介さん」の交流会などを企画し、活動を応援



タコルプの缶バッジ



部会④

気づく 福祉語ろう会

地域福祉活動に関して、日頃感じていることなどを自由にお話ができる場をつくっていく予定です。コロナ禍で活動休止中ですが、令和5年度は積極的に進める予定です。

詳細は区社協ホームページでご覧いただけます。



https://www.fukufuku.or.jp/?page_id=2200#aiaiplan1

部会①

助け合う ちょこっと♡助っ人ポイント制度

「地域」「施設・団体」「区の行事・イベント」などで、気軽に手伝う「ちょこっと♡助っ人」を募り、活動を支援・サポートできるような取組みです。

ちょこっと♡助っ人とは…

- 地域活動や福祉活動などに興味や関心をもっている人
- 本格的な活動に関わるのは難しい…でも簡単なお手伝いならやってみたい人（活動するには登録が必要です。登録説明会は区社協で定期的に開催しています！）

ちょこっと♡助っ人って何をやるの？

地域や施設・団体の事業や活動などからの「ちょっとした困りごとや手伝ってほしいこと」の依頼に対して、ちょこっとと手助けをお願いします。

『ちょこっと♡助っ人ポイント制度』で活動したら…

活動に参加したら1ポイント（1時間を超えるごとにプラス1ポイント）もらえます！集めたポイントは、『ステキなもの』と交換できます。

※令和5年5月頃から、毎週金曜日に区役所で開催されている「にしよどマーケット（授産品の販売）」で利用できる「ちょこ助チケット」と交換できる予定です



部会③

届ける ウエルカムバンク～ウエルカムな気持ちを預けるバンク～

区内には50を超える国の人が暮らしています。地域との関わりが少ない外国にルーツをもっている人などに、必要とする情報の提供などをおこなえるよう「ウエルカムバンク～ウエルカムな気持ちを預けるバンク～」を創設し、生活に寄り添える人を「ウエルカムバンクかわり隊員」として登録を促していきます。

数珠つなぎインタビューの実施

「何に困ってるの？」「何に興味があるの？」「どこの国の人がどんなところにいるの？」など、外国籍の人を知ることから始めてみよう！ということで「数珠つなぎインタビュー」を実施中。令和5年3月時点で10か国、延べ40人にインタビューしています。

にほんごカフェの開催

数珠つなぎインタビューを通して分かった「日本語を学びたい」「気軽に学べる場があればうれしい」「近くにあれば子どもがいても通える」という声を反映して、外国にルーツを持った人が「日本語」の学びだけにとどまらず、気軽に集まって楽しく情報交換ができる居場所として「にほんごカフェ」をオープン。参加費は無料で月2回開催しています。



西淀川」と基本理念を定めています。

「支え上手」とは困っている人に気づいたら積極的に声をかけたり、ちょっとしたお手伝いができる人のことです。「支えられ上手」とは、しんどい時は「助けてー」と気軽に言うことができる、ご近所の人などに頼ることができる人のことです。

「あふれるまち 西淀川」とは区内において「支え上手 支えられ上手」といった、顔と顔が見える関係、地域とのつながりのある人を増やしていくことを意味しています。

多様な主体が参画

地域福祉の取組みを計画的に推進していくため、年度ごとの達成状況や課題などを把握し、適切に評価する「西淀川区地域福祉推進会議」を設置しています。一般公募などで集まったメンバーで年に3回会議を開催しています。

また、5つの基本目標である「気づく」「知り合う」「助け合う」「届ける」「活かす」をキーワードに4つの部会を立ちあげており、地域団体、民生委員・児童委員、ボランティア、社会福祉施設、NPO、企業などの多様な主体と協力しながら、計画に沿った取組みを進めています。

推進委員だけでなく、住民誰でも参画できる仕組みになっています。

コロナ禍ではありましたが、感染症対策をとりながらできるだけ継続して対面で部会会議を開催し、検討を重ねてきました。感染状況に合わせて、計画に沿った取組みができる機会が増えてきており、少しずつ活動者も増えていきます。

4年目を迎えて

事務局を担っている区社協・地域支援担当係長の西川博子さんは「メンバーの皆さんとわくわく楽しみながら取り組むことを大切にしてきました。部会の名前が個性的なのもそのためです。今後、もっと区内であいプランについて広め、さまざまな人と協働しながら、気軽に参画してもらえよう工夫をしていきたいです」と話します。



▲地域福祉推進会議のようす

した。あいプランの取り組みが区内全域に広がるように、今後も取組みを進めていきます。

助成金のご案内

①赤い羽根共同募金助成金

〈対象〉 大阪府内で行う民間社会福祉事業、更生保護事業、その他社会福祉を目的とする事業を行う法人・団体が、令和6年度(令和6年4月～翌年3月末)に実施する事業

〈締切〉 令和5年5月1日(月)～19日(金)

②河原林富美福祉基金助成金

新型コロナウイルスの影響に苦しむ人々に対する支援活動に取り組む事業も対象としています。

ボランティア活動支援事業

〈対象〉 大阪府内にて広域で福祉ボランティア活動を行い、一定の要件を満たす団体が、令和5年度(令和5年8月～翌年3月末)に実施する事業

社会福祉協議会への地域福祉活動促進事業

〈対象〉 大阪府内の市区町村社会福祉協議会が、令和5年度(令和5年8月～翌年3月末)に実施する軽自動車購入事業または地域福祉活動促進事業

〈締切〉 5月31日(水)

①②とも詳しくは

〈大阪府共同募金会ホームページ〉

<http://www.akaihane-osaka.or.jp>をご覧ください。

赤い羽根おおさか

検索

〈問合せ〉 大阪府共同募金会事務局まで
TEL 06-6762-8717

E-MAIL ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp

(件名に「助成金の申請について」と明記してください)

風をよむ

世界ソーシャルワーク・デー

大阪公立大学大学院生活科学研究科 教授 鶴川 重和

去る2023年3月21日火曜日は、世界ソーシャルワーク・デーであった。この世界ソーシャルワーク・デーは、2007年に「Social Work-Making a World of Difference (ソーシャルワーク・劇的な変化をもたらす)」というテーマで第1回が開催された。以降、世界中のソーシャルワーカーが個人、家族、地域、そしてより広い社会に対するソーシャルワークの貢献を称えるとともに、今後の社会のためにソーシャルサービスを広く世に広めること、そして社会的な公正と人権を擁護することを目的とした祭典として毎年3月の第3火曜日におこなわれている(International federation of social workers: IFSW, 2022)。2011年第5回のキーワードは「global social crises (世界的な社会危機)」、2016年第10回のキーワードは「Dignity and Worth of Peoples (人々の尊厳と価値)」、2021年第15回のキーワードは「Social Development (社会開発)」と変遷し、今年2023年のテーマは、「Respecting diversity through joint social action (多様な個性の尊重)」である(IFSW, 2023)。このテーマは、ソーシャルワーカーには、複数の個人やグループの資源、技能、ネットワークを組み合わせて社会問題に取り組む、社会変革をもたらすためにおこなわれる取組み(ジョイント・ソーシャルアクション)を通じて、人々の多様性、背景、立場、意見を尊重するだけでなく、公共政策やソーシャルワークにおけるアプローチ、支援の多様性の価値にも光をあてること(IFSW, 2023)が期待されていることを示すものであり、多様性を尊重する文化を基盤とする国連憲章や持続可能な開発のためのアジェンダ2030の目標(Sustainable development goals: SDGs)とも一致した考え方である。

社会福祉施設の

公益的な取組みの推進を ご紹介します

大阪市内には、1000か所を越える社会福祉施設があり、従来から制度の枠組みに捉われず、さまざまな取組みを展開してきました。社会福祉施設がもっている資源や強みを活かしながら地域課題の解決に取り組むことは、地域共生社会の実現において大きな役割を担っています。

公益的な取組みは施設の特性を活かして多彩なものとなっており、市内で実践している取組みを例に挙げても、職員の専門性を活かした住民向けの研修の開催、住民向けの相談会、居場所づくり、小学生の登下校時の見守り、施設のスペースの提供とさまざまです。

今後本誌では、新型コロナウイルス感染症による影響が残っている状況下でも工夫をこらしながら活動している社会福祉施設の取組みにスポットをあてて、紹介していきます。

掲載してほしいという大阪市内の施設の取組み情報も募集しています。自薦・他薦は問いません。ぜひ、ご連絡ください。

問合せ先

大阪市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 06-6765-5606

MAIL sisetsu-mail@sisetsukyo.osaka-sishakyo.jp

本会では4つの社会福祉施設による公益的な取組みを動画で紹介しています。

下記からご覧いただけますので、ご確認ください。

※令和3、4年度開催の一水会・区社会福祉施設連絡会合同学習会の内容をもとに作成

▶動画はこちらからご覧いただけます

<https://www.osaka-sishakyo.jp/fukusinotorikumi/sisetsunotorikumi/>



▲高齢者施設による小学校の登下校時の見守り



▲高齢者施設による親子を対象としたこども食堂



▲障がい者施設・区社協協働で中学校で福祉教育



▲障がい者施設による区社協主催講座への協力

大阪市社会福祉協議会

法人就職説明会

令和6年4月1日採用の新卒予定者を対象とした説明会です。実際に市・区社協で働いている職員が社協についてや仕事内容、働いているなかで感じる魅力について紹介します。ぜひ、ご参加ください。

開催日 令和5年 **4/27** (木)
 〈午前の部〉午前10時～正午
 〈午後の部〉午後2時～4時

※午前の部、午後の部どちらも同じ内容です

開催場所 大阪市立社会福祉センター3階 第1会議室
 (大阪市天王寺区東高津町12-10)

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

がん医療 がん医療 がん医療

www.ms-ins.com

定員 午前の部、午後の部ともに
 〈会場〉20人 〈オンライン〉50人

対象者 【会場またはオンラインで受付】

次の①～③をすべて満たす方

- ① 令和6年4月1日現在で26歳未満の方
- ② 令和6年3月に4年制大学(大学院・専門学校を含む)を卒業(修了)見込みで社会人未経験の方
- ③ 社会福祉士資格を有する方または第36回社会福祉士国家試験受験予定の方
 もしくは第110回保健師国家試験受験予定の方

【オンライン参加のみ受付】

令和6年4月1日現在で30歳未満かつ次のいずれかの資格を有する方

- 社会福祉士 ●介護支援専門員
- 精神保健福祉士 ●保健師
- 主任介護支援専門員 ●看護師※要件有り

申込み 市社協ホームページからエントリー
 〈申込み期間〉4月19日(水) 締切
 締切後、エントリーされた方にメールで連絡します。

問合せ 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
 TEL 06-6765-5601 (担当:総務課)

